

石見銀山遺跡の世界遺産登録10周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

「石見銀山遺跡」は、日本では14番目のユネスコの世界遺産として登録されたのでありますが、登録に際しましては、当時ユネスコ日本政府代表部特命全権大使でありました近藤様には、大変お世話になりました。

近藤様には、「自然との共生」という視点を中心にして進めていってはどうか、とのアドバイスを頂き、ユネスコのニュージーランドでの会議におきまして、石見銀山の登録をユネスコが認めることを実現されたのでありまして、その大変なご尽力に改めまして厚く御礼申し上げます。

登録後、石見銀山遺跡は国内外から多くの方々に訪れていただいております。

これも、地元大田市民の皆様、文化庁長官をはじめとする政府関係者の皆様、全国の研究者の皆様など、多くの皆様方のご協力をいただいているお蔭であります。

心より感謝を申し上げる次第であります。

さて、ご承知のように、石見銀山遺跡は、16世紀の「大航海時代」におきまして、石見銀山が海外及び国内の経済や文化に大きな影響を与えたこと、そして、その遺跡が大田市の皆様方によって、きわめて良好な状態で保存されていることが、高く評価されたのであります。

県では、このような石見銀山の価値をできるだけ分かりやすく、多くの人々に伝えていくために、継続して調査研究事業を行ってきているところであります。

今回、世界遺産登録10周年を記念しまして、本年7月14日から、古代出雲歴史博物館と石見銀山資料館の2館におきまして、「石見銀山展」を開催致します。

大航海時代に、世界の経済や文化は、銀によってひとつに結びついて行きました。その原動力となった世界遺産「石見銀山」の歴史的価値やその魅力につきまして、多くの方々に分かりやすく紹介してまいります。

今後とも、地元大田市と県が一体となりまして、石見銀山の価値を様々な方法で国内外の方々に広く伝えるとともに、未来の世代へと継承して行きたいと考えております。

皆様には引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、ご列席の皆様のみすますのご発展とご健勝を祈念申し上げ、ご挨拶と致します。

本日は、誠におめでとうございます。